

Gmail

～2.6Gバイトをフル活用

Gmailは、Googleが提供する、2.6Gバイトという大容量が特徴の招待制電子メールサービスです。Googleのサービスというだけあって、Gmailには容量以外にも優れた検索能力や意外な活用法が潜んでいます。本稿では、Gmailを使いこなす方法を紹介いたします。◇(株)はてな 水野貴明 MIZUNO Takaaki

はじめに

Gmailは、検索エンジンサイトとして名を馳せているGoogleが提供する電子メールサービスです(図1)。

Gmailは「招待制」、つまり誰かすでにアカウントを登録している人に招待してもらわなければ参加することができないサービスですが、技術者を中心にユーザ数はどんどん増えているので、すでにアカウントを持っている人も多いのではないのでしょうか。

こうしたいわゆる「Webメールサービス」は、Googleだけでなく、Yahoo!やMicrosoftのHotmailをはじめ、数多くありますが、GmailはいかにGoogleらしい特徴がいくつも盛り込まれた、なかなかユニークなサービスとなっています。

Gmailの特徴

Gmailの最大の特徴は2.6Gバイトというその容量にあります。これほどの大容量を持っているわけは、Gmailの開発が「一度受け取ったメールを捨てる必要がないサービスがほしい」というアイデアからスタートしたからだと言います。

Gmail登場後、他のWebメールサービスも追従して容量を増やし、現在ではGバイト単位の容量を持つサービスも多くなってきました。しかし、当初1Gバイトで開始したGmailは、2005年4月1日にサービスの容量を倍の2Gバイトに増やし、その後も少しずつ容量を増やし続けているのです。

■フォルダではなくラベル

一般的なメールソフトでは、フォルダを作って

あらかじめメールを用途や状況別に複数のフォルダに整理しておきます。これは、後で目的のメールを探しやすくするためです。

しかし、Gmailでは、「フォルダ」の代わりに「ラベル」を使います。ラベルによってメールに属性付けを行い、基本的には必要なメールは検索によって見つけるしくみになっているのです。GoogleはもともとWeb検索の技術を持っていますから、これを応用することで、大量のメールから目的の情報を高速に発見するしくみを導入しているのです。

■Google独特のクセ

ただ、Gmailの使い方には多少クセがあります。これはGmailに限らずGoogleのサービス全体に言えることかもしれません。

Googleのサービスの多くは、高機能であるにもかかわらず使い方がわかりにくく、使いこなすことがなかなか難しいのです。

Gmailにはいろいろ特徴があることは知っていても、いまひとつ使いこなせていないなあ、と感じている人も多いのではないのでしょうか。そこで今回はGmailのさまざまな特徴に注目し、使いこなす方法を紹介していきます。

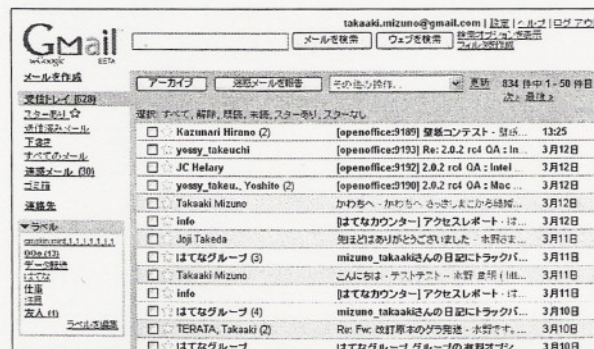


図1 ▲ Gmailのトップ画面。